

第74回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日 時：2023年11月11日(土) 9：25～12：10

口演発表 (学位口演発表) 9：30～11：10

口演発表 (一般口演発表) 11：20～12：10

Zoomミーティングによるオンライン開催

連絡先：福島県郡山市富田町三角堂31-1

☎024-932-8931

奥羽大学歯学会

お 願 い

会員の方へ：

1. <https://forms.gle/5uDk19B5WniiCFzq9> から参加登録を済ませてください。
2. 入室後、発表者と座長以外は、マイクoff, カメラoff にしてください。
3. 討議の際には「手を挙げる」機能を使い、座長の指示を待ってください。

発表の要領：

1. 口演の演者は発表当日までに、所定の事後抄録を前田（E-mail：t-maeda@den.ohu-u.ac.jp）までテキスト添付にてご送信ください。（800字程度）
2. 口演発表
 - 1) 口演発表
 - ①参加者の環境機器は、多様である事が予想されます。スライドの文字サイズ等に配慮してください。
 - ②学会開催前日の午後4時30分からZoomにて試写を行います。
IDパスワードは学会当日と共通です。
 - ③利益相反(COI)の開示：COIの有無に関わらずスライドでCOI状態を開示頂きます。全ての口演者は、2枚目のスライドに「利益相反(COI)開示について」の題目で報告をしてください。
 - 2) 口演時間
口演時間は口演8分、討論2分の計10分です。
時間の経過については、タイマーを用意いたします。

第74回奥羽大学歯学会プログラム

9:25 開会の辞

瀬川 洋 会長

一口演発表(学位口演10演題)

9:30～10:00

座長 清野 晃 孝

9:30～9:40

1. デクスメデトミジンの顎骨内における血管の反応

○佐藤 光¹、川合宏仁²

(奥羽大・大学院・生体管理¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²)

研修コード0402 関連項目 (1) 1101 (2) 1105

9:40～9:50

2. インプラント周囲軟組織の形態的特徴とインプラント周囲炎の関連を調べる縦断研究

○山崎厚作¹、山崎幹子²、高橋慶壮¹

(奥羽大・歯・歯科保存¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

研修コード0603 関連項目 (1) 0501 (2) 0901

9:50～10:00

3. 下顎遊離端欠損部に対するインプラント上部構造の設計

—三次元有限要素解析による生体力学的検討—

○五日市純宏¹、佐々木槇一¹、池田敏和²、松本知生²、高津匡樹^{1,2}、山森徹雄^{1,2}

(奥羽大・大学院・口腔機能回復¹、奥羽大・歯・歯科補綴²)

研修コード0603 関連項目 (1) 0601 (2) 0602

10:00～10:40

座長 山森 徹 雄

10:00～10:10

4. 硬性の異なる仮着用セメントの支台歯ごとの併用が接着強さへ及ぼす影響について

○内田光洋^{1,3}、石田喜紀²、羽鳥弘毅³

(奥羽大・大学院・生体材料・医用工学¹、奥羽大・歯・生体材料²、奥羽大・歯・歯科補綴³)

研修コード0413 関連項目 (1) 0407 (2) 1109

10:10～10:20

5. ウシ下顎中切歯象牙質の異方性と機械的特性の解析

○下條知信、倉品先秀、大木達也、齋藤龍一、石田喜紀

(奥羽大・歯・生体材料)

研修コード1002 関連項目 (1) 1101 (2) 1109

10：20～10：30

6. ワンステップセルフエッチングシステムにおけるエッチング前処理時間の接着強さへの影響

○島本英治、倉品先秀、大木達也、齋藤龍一、石田喜紀
(奥羽大・歯・生体材料)

研修コード0413 関連項目 (1) 1003 (2) 1109

10：30～10：40

7. 骨格性下顎前突症患者における術前後の短期的な睡眠動態変化についての考察

○笹谷哲郎¹、川鍋 仁^{1,2}、福井和徳^{1,2}
(奥羽大・大学院・顎顔面口腔矯正¹、奥羽大・歯・成長発育歯²)

研修コード0802 関連項目 (1) 0706 (2) 0502

10：40～11：10

座長 柴田達也

10：40～10：50

8. TLR2リガンドが誘導する炎症性サイトカイン産生に窒素含有ビスフォスフォネートが与える影響

○赤穂麗子¹、玉井利代子²、清浦有祐²
(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0502

10：50～11：00

9. *Candida glabrata*のNOD/ShiJic-scidJclマウスに対する炎症性サイトカイン産生誘導能

○藤田憲仁¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0502

11：00～11：10

10. 窒素含有ビスフォスフォネートがASC欠損マクロファージ様細胞の炎症性サイトカイン産生に与える影響

○渡部議之¹、玉井利代子²、清浦有祐²
(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0502

一口演発表(一般5演題)

11:20 ~ 11:50

座長 鈴木史彦

11:20 ~ 11:30

11. 臼歯部Ⅱ級修復における各種隔壁法を用いた直接修復と間接修復の隣接面形態再現性の比較検討—第2報

○小鷲啓典、影山 直、野口太照、大木英俊、橋本昌典、菊井徹哉、山田嘉重
(奥羽大・歯・歯科保存)

研修コード0412 関連項目 (1) 0403 (2) 0404

11:30 ~ 11:40

12. 奥羽大学歯学部附属病院予診科における最近の初診患者の動向—第4報—

○宮武宏明¹、山崎 翠¹、山内 彬¹、赤穂麗子¹、渡邊 聡¹、梅村浩二郎¹、渡部議之¹、
鈴木海路^{1,2}、山家尚仁^{1,2}、佐藤健太¹、北條健太郎^{1,2}、清野晃孝¹、大野 敬¹
(奥羽大・歯・病院¹、奥羽大・歯・歯科補綴²)

研修コード0102 関連項目 (1) 0104 (2) 0201

11:40 ~ 11:50

13. 顎骨内に迷入した手用根管切削器具の破折片を除去した一症例

○佐藤穩子¹、木村裕一¹、橋本有加¹、今井彩乃²、阿部将太³、山崎信也²
(奥羽大・歯・歯科保存¹、奥羽大・歯・口腔外科²、奥羽大・大学院・生体管理³)

研修コード0499 関連項目 (1) 0410 (2) 0502

11:50 ~ 12:10

座長 廣瀬公治

11:50 ~ 12:00

14. アフリカツメガエル皮膚細胞内情報伝達系活性化による感覚受容閾値の変動

○古山 昭¹、秋山真実²、小嶋忠之³、大須賀謙二¹、川合宏仁¹
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・歯・学生²、奥羽大・歯・口腔外科³)

研修コード1106 関連項目 (1) 0502 (2) 1107

12:00 ~ 12:10

15. うま味刺激誘導性唾液に着目した喫煙マーカートンパク質の解析

○秋山真実¹、古山 昭²、大須賀謙二²、川合宏仁²
(奥羽大・歯・学生¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²)

研修コード1106 関連項目 (1) 0901 (2) 0502

12:10 閉会の辞

川合宏仁 副会長

口 演 発 表 抄 録 (学 位 口 演 発 表)

9 : 30 ~ 11 : 10

1. デクスメデトミジンの顎骨内における血管の反応

○佐藤 光¹、川合宏仁²

(奥羽大・大学院・生体管理¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²)

デクスメデトミジンは、 $\alpha 2$ アドレナリン受容体への選択性が高く、循環への影響も少ないため、局所麻酔薬の有用な血管収縮薬として注目されている。歯科治療への応用という観点における過去の研究では、デクスメデトミジンをリドカインに添加することでリドカインの局所麻酔効果を増強させることが報告されており、期待されている薬剤でもある。そこで、デクスメデトミジンを局所に投与した際に、口腔内組織の血管に対する作用を明らかにするために本研究を行った。

研修コード0402 関連項目 (1) 1101 (2) 1105

2. インプラント周囲軟組織の形態的特徴とインプラント周囲炎の関連を調べる縦断研究

○山崎厚作¹、山崎幹子²、高橋慶壮¹

(奥羽大・歯・歯科保存¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

我々は歯周病患者の口腔インプラント治療を行った後ろ向き研究から、歯周炎の重症度 Stage IV およびリスク度を表す Grade C、インプラント埋入本数および GBR の併用がインプラント周囲炎の risk indicator であると報告した。本研究では、当科で口腔インプラント治療を受けた患者45名 (インプラント周囲炎患者8名) (175本 インプラント周囲炎17本) を対象に、インプラント周囲軟組織の形態的特徴 (インプラント周囲溝の深さ、水平的な幅と垂直的な高さ、その比率) とインプラント周囲炎の関連性を調べた。軟組織の特徴とインプラント周囲骨吸収の関与は認められなかった。天然歯に隣接するインプラント周囲骨の吸収は有意に低かった。

研修コード0603 関連項目 (1) 0501 (2) 0901

3. 下顎遊離端欠損部に対するインプラント上部構造の設計

－三次元有限要素解析による生体力学的検討－

○五日市純宏¹、佐々木槇一¹、池田敏和²、松本知生²、高津匡樹^{1,2}、山森徹雄^{1,2}

(奥羽大・大学院・口腔機能回復¹、奥羽大・歯・歯科補綴²)

下顎第二小白歯、第一大臼歯、第二大臼歯欠損症例に対する口腔インプラント治療において、第二小白歯部にオトガイ孔が存在したり、同部の顎骨幅や高さが不足する場合などには、第一大臼歯部と第二大臼歯部にインプラント体を埋入して第二小白歯部に延長ポンティックを有する上部構造を装着したり、第一大臼歯部と第二大臼歯部のインプラントと天然歯である下顎第一小白歯を支台とするブリッジを装着することも考えられる。本研究では、三次元有限要素解析にてこれらの設計間の差異を検索する。

研修コード0603 関連項目 (1) 0601 (2) 0602

4. 硬性の異なる仮着用セメントの支台歯ごとの併用が接着強さへ及ぼす影響について

○内田光洋^{1,3}、石田喜紀²、羽鳥弘毅³
(奥羽大・大学院・生体材料・医用工学¹、奥羽大・歯・生体材料²、奥羽大・歯・歯科補綴³)
補綴歯科治療においてプロビジョナルレストレーションを使用することは、歯列の保全、最終補綴装置の設計指針とするために重要な処置である。

本研究では、支台歯ごとに硬性の異なる歯科用仮着用セメントを使用した場合のセメントの接着強さについて検討した。

その結果、支台歯ごとに仮着材を使い分けて仮着することは、プロビジョナルレストレーションの接着強さのコントロールに有効な可能性が示唆された。

研修コード0413 関連項目 (1) 0407 (2) 1109

5. ウシ下顎中切歯象牙質の異方性と機械的特性の解析

○下條知信、倉品先秀、大木達也、齋藤龍一、石田喜紀
(奥羽大・歯・生体材料)

ヒト歯牙の主成分である象牙質の形態的特徴は歯科治療において極めて重要であり、多くの先行研究が行われてきた。近年、口腔の機能に関連する力学的シミュレーションが増加しているが、象牙質の異方性への取り組みは限定的である。本研究では、ウシ下顎中切歯の象牙質を使用し、SEMによる形態学的評価とクリープテストによる機械的評価を行い、象牙細管の走行方向と弾性・粘性率の関連を明らかにした。

研修コード1002 関連項目 (1) 1101 (2) 1109

6. ワンステップセルフエッチングシステムにおけるエッチング前処理時間の接着強さへの影響

○島本英治、倉品先秀、大木達也、齋藤龍一、石田喜紀
(奥羽大・歯・生体材料)

ワンステップセルフエッチングシステムが主流となる中、リン酸前処理がエナメル質において高い接着強さをもたらすことが知られている。しかし、これはエナメル質に特化した結果であり、象牙質においては接着強さの低下が指摘されている。これらの結果はエナメル質への使用を前提としたもので、象牙質に対する適切なリン酸の濃度や処理時間に関する研究は限られている。本研究では、トータルエッチングを考慮し、エナメル質と象牙質の両方に対して最適なリン酸濃度と処理時間を明らかにすることを目的とした。

研修コード0413 関連項目 (1) 1003 (2) 1109

7. 骨格性下顎前突症患者における術前後の短期的な睡眠動態変化についての考察

○笹谷哲郎¹、川鍋 仁^{1,2}、福井和徳^{1,2}

(奥羽大・大学院・顎顔面口腔矯正¹、奥羽大・歯・成長発育歯²)

C.Guillemineault らは、下顎後方移動術で気道狭窄が発現し、結果として閉塞性無呼吸症候群 (OSAS) や上気道抵抗症候群 (UARS) の発現を報告している。

本研究は下顎後方移動による顎矯正手術直後の短期的な術前後の睡眠動態を RDI (呼吸障害指数) の変化を調査し、手術直後における気道の形態変化、および炎症反応が、睡眠動態へ与える影響期間を検索することを目的とした。結果より顎矯正手術後の RDI と炎症反応には関連性があることが示唆され、睡眠呼吸動態の回復には術後3週間程度の期間が必要であると考えられた。

研修コード0802 関連項目 (1) 0706 (2) 0502

8. TLR2リガンドが誘導する炎症性サイトカイン産生に窒素含有ビスフォスフォネートが与える影響

○赤穂麗子¹、玉井利代子²、清浦有祐²

(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

アレンドロネートは骨吸収抑制薬である窒素含有ビスフォスフォネートの1種である。我々は以前、アレンドロネートによる、リポドA誘導IL-1 β 放出の増加を報告した。本研究では、アレンドロネートがNF- κ B p65の活性化を引き起こして、TLR2リガンドが誘導するマウスマクロファージ様細胞RAW-ASC (ASCを発現させたRAW264.7細胞) の炎症性サイトカイン産生を増加したので報告する。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0502

9. *Candida glabrata*のNOD/ShiJic-scidJclマウスに対する炎症性サイトカイン産生誘導能

○藤田憲仁¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}

(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

Candida glabrata (*C. glabrata*) は non-*albicans Candida* spp. の中でカンジダ症の原因になる頻度が高い菌種であり、易感染性宿主のような免疫機能が低下した者に病原性を発揮する。その理由として、*C. glabrata* が強い炎症性サイトカイン産生誘導能を有する可能性が考えられる。本研究では、T細胞及びB細胞機能を欠如し、補体活性も低下した免疫不全マウスであるNOD/ShiJic-scidJclマウスを使用してサイトカイン産生誘導能を明らかにすることを試みた。その結果、*C. glabrata* はNOD/ShiJic-scidJclマウスから炎症反応を亢進する多種類のサイトカイン産生を誘導することが示された。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0502

10. 窒素含有ビスフォスフォネートがASC欠損マクロファージ様細胞の炎症性サイトカイン産生に与える影響

○渡部議之¹、玉井利代子²、清浦有祐²

(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

我々は以前、インフラマソーム関連分子であるカスパーゼ動員ドメイン含有アポトーシス関連スベック様タンパク質 (ASC) が窒素含有ビスフォスフォネートによる IL-1 β 放出増加に関与することを報告した。本研究では、ASC を欠損したマウスマクロファージ様細胞 RAW264 の場合、窒素含有ビスフォスフォネートが転写因子 AP-1 の活性化を介して、リポド A が誘導する IL-1 β 放出を増加したので報告する。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0502

口 演 発 表 抄 録 (一 般 口 演 発 表)

11 : 20 ~ 12 : 10

11. 白歯部Ⅱ級修復における各種隔壁法を用いた直接修復と間接修復の隣接面形態再現性の比較検討 - 第2報

○小鷲啓典、影山 直、野口太照、大木英俊、橋本昌典、菊井徹哉、山田嘉重
(奥羽大・歯・歯科保存)

コンジットレジン直接修復用のマトリックスシステムは多種存在するが、各種隔壁法による形態再現性の違いは十分に検討されていない。

今回、我々は臨床年数の異なる3人の術者により、各種隔壁法を用いたⅡ級直接修復による隣接面形態と、間接修復 (レジンインレー) による隣接面形態にどの程度形態再現性に違いが生じるかを比較検討することを本研究目的とした。

本研究では歯種による再現性の違いについても検討するため、人工歯 (小白歯・大白歯) を用いて検討した。

研修コード0412 関連項目 (1) 0403 (2) 0404

12. 奥羽大学歯学部附属病院予診科における最近の初診患者の動向 - 第4報 -

○宮武宏明¹、山崎 翠¹、山内 彬¹、赤穂麗子¹、渡邊 聡¹、梅村浩二郎¹、渡部議之¹、
鈴木海路^{1,2}、山家尚仁^{1,2}、佐藤健太¹、北條健太郎^{1,2}、清野晃孝¹、大野 敬¹
(奥羽大・歯・病院¹、奥羽大・歯・歯科補綴²)

奥羽大学歯学部附属病院は理念・基本方針のもと、超高齢社会など多様化するニーズに対応している。2021年、2022年の福島県沖地震や、2019年末から流行し今年の5月に5類感染症へ移行した新型コロナウイルス感染症など著しい環境変化に対応すべく、2023年9月6日から10月6日までの本院初診患者の動向を調査し、2014年2015年2017年の調査結果と比較検討した。

その結果、治療のみではなく高齢患者の安心で安全な通院環境の整備と、幅広く求められる専門性に答える必要性が示唆された。

研修コード0102 関連項目 (1) 0104 (2) 0201

13. 顎骨内に迷入した手用根管切削器具の破折片を除去した一症例

○佐藤穩子¹、木村裕一¹、橋本有加¹、今井彩乃²、阿部将太³、山崎信也²

(奥羽大・歯・歯科保存¹、奥羽大・歯・口腔外科²、奥羽大・大学院・生体管理³)

治療用小器具の根管破折は最も頻度が高い偶発症であるが、過大な機械的ストレスが器具に加わることで根管壁に食い込み破折するため、根管外に押し出されることは少なく、押し出された場合も根尖孔付近に存在することが多い。

今回、穿孔していない歯で、根尖孔から離れた顎骨内に存在した手用根管切削器具の破折片を除去した症例の概要を報告する。

研修コード0499 関連項目 (1) 0410 (2) 0502

14. アフリカツメガエル皮膚細胞内情報伝達系活性化による感覚受容閾値の変動

○古山 昭¹、秋山真実²、小嶋忠之³、大須賀謙二¹、川合宏仁¹

(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・歯・学生²、奥羽大・歯・口腔外科³)

炎症により痛覚過敏など感覚閾値の低下が生じるが、それは感覚神経で細胞内情報伝達系が活性化する結果、感覚受容体がリン酸化されるためだと考えられている。本研究ではアフリカツメガエル皮膚で細胞内情報伝達系を活性化したところ、機械刺激では閾値の低下が生じたが、温熱性侵害刺激では閾値の上昇が生じた。感覚受容体リン酸化が感覚閾値を低下させるだけでなく、上昇させる分子内メカニズムも存在する可能性がある。

研修コード1106 関連項目 (1) 0502 (2) 1107

15. うま味刺激誘導性唾液に着目した喫煙マーカータンパク質の解析

○秋山真実¹、古山 昭²、大須賀謙二²、川合宏仁²

(奥羽大・歯・学生¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²)

うま味誘導性唾液を検体とすることにより、唾液タンパク質を利用した疾患診断検査の精度向上に寄与できる可能性がある。喫煙が疾患リスクを増大させる観点から、喫煙が唾液タンパク質発現に与える影響を、安静時唾液とうま味誘導性唾液とで比較検討した。その結果、唾液タンパク質の一部はうま味刺激により発現量が大きく変化するが、喫煙によりその変化が抑制されることが判明した。この性質を利用することで、喫煙の診断精度を大幅に向上できる。

研修コード1106 関連項目 (1) 0901 (2) 0502

第75回奥羽大学歯学会予定
日時：2024年6月20日(木)

—歯学会学会委員—

福井和徳 (成長発育歯)*、前田豊信 (口腔機能分子)*、宇佐美晶信 (生体構造)、
島村和宏 (成長発育歯)、菊井徹哉 (歯科保存)、御代田駿 (口腔外科)、
大橋明石 (口腔衛生)、南 健太郎 (口腔衛生)、小林美智代 (口腔衛生)、
山家尚仁 (歯科補綴)、内山梨夏 (歯科補綴)、古山 昭 (口腔機能分子)

*学会委員会理事
